

物語作成の際に重視する項目は何か

日中比較の中間報告

清泉女学院大学 上原 泉
清泉女学院大学 東 洋

What aspect of story is valued?

: An interim report of cross-cultural differences between Japan and China.

Seisen Jogakuin College UEHARA, Izumi
Seisen Jogakuin College AZUMA, Hiroshi

物語作成の際に、重視する部分について、日中間で差があるのか否かを検討するため、日中の大学生とその親を対象に質問紙調査を実施した。質問紙では 32 項目を示し、それぞれの項目が、物語作成の際にどれくらい重要だと思うかについて、3 件法で評定させた。日中のデータをあわせて因子分析を行い、因子得点を比較したところ、次のような結果を得た。日中で共有する因子として、「成功者因子」「プロフィール・履歴書因子」「近親者との関係因子」の 3 つが見出されたが、中国では、「成功者因子」「近親者との関係因子」をより重視し、日本では「プロフィール・履歴書因子」を重視する傾向にあった。

また、32 項目から特に重要な 5 項目を選択させた結果や、項目ごとの結果をみると、中国では、健康への注意、きまじめさ、将来への希望、人間関係の良好さを重視し、日本では、ふさぎこむ、結婚している、目立ちたがるという項目を重視する傾向もみられた。

【キ ・ ワ ・ ド】日中比較，認知的枠組，物語作成，重視する項目

To investigate what aspect of story is valued in two cultures, Japan and China, we asked the Japanese and Chinese participants, through questionnaire, to rate each of 32 items how necessary for making a story. The answer was made on a 3-point scale: Necessary (3), Uncertain (2), and Not so necessary (1). The factor analysis of the data shows that there are main 3 factors in two cultures: Factor 1 (A success), Factor 2 (Profile or Personal history), and Factor 3(Close relationship). While the Chinese tend to value Factor 1 (A success) and Factor 3(A close relationship), the Japanese tend to value Factor 2 (A profile or a personal history).

[Key Words] Cross-cultural difference, Cognitive frame, Story-making, Important items.

はじめに

誰もが、多様な文化をあわせもつ形で、自分独自の文化環境を有しており、その個人の集まりである集団の文化は、流動的で、固定化されたものとはいえないため、異なる集団文化間で安易に単純比較することはできない(東, 2003)。とはいえ、個人が幼少期から長期にわたり、同じ集団文化内で生活していれば、所属集団内で共有されるような、ある種の認知的枠組、社会的了解事項を、暗黙のうちに身につけているものと思われる(Azuma, in press)。この所属集団内で通用する認知的枠組自体、社会環境の変化に応じて、変化していくであろうが、一度幼少期に身につけた認知的枠組は同じ個人内で急激には変わりづらいこと、恐らく認知的枠組は家族を中心とする社会環境の中で形成されることを考慮すると、集団内で共有する認知的枠組の変化は徐々にすすむものと思われる。

近年、さまざまな国の小説、映画、ドラマなどの作品を簡単に読んだり、見ることができるようになった。これだけ、交流が盛んになると、国や民族の違いによる作品内容の差異がほとんどなくなったのかというと、必ずしもそうとはいえないように思われる。また、読者や視聴者が作品に対して持つ印象や考え方も、集団間で差があるようにも思われる。上記の仮説に従うなら、物語はこうあるべきであるという了解事項に、異なる集団間で差が見出される可能性が考えられる。例えば、面白いとされる物語の展開のされ方、物語に含まれるべき要素、支持されるヒーロー、ヒロイン像などである。

本稿では、最初の試みとして、物語作成の際に重視される項目について、日中間で比較検討することとした。

方 法

対象者

日本の大学生とその親、中国の大学生とその親を対象に調査を実施した。日本の大学生は、東京都内の4つの男女共学の大学と1つの女子大学、長野県内の1つの男女共学の大学のいずれかに所属していた。中国の大学生は、北京近郊の2つの男女共学の大学のいずれかに所属していた。質問項目への回答がすべて揃っている428人分のデータを分析の対象とした。428人の内訳は、日本人326人(大学生236人:男子学生102人,女子学生134人;親90人:父親25人,母親65人)、中国人156人(大学生81人:男子学生40人,女子学生41人;親75人:父親35人,母親40人)であった。

課題

質問紙による調査を実施した。調査用紙は、5つの設問内容から成っており、本調査は、そのうちの1設問に関するものである。調査は無記名で実施されたが、質問紙の最後で、性別、兄弟構成、出身地域、学歴等について可能な範囲内で記入をお願いした。本設問内容は“物語を作成するのに、主人公に関する32項目の情報がどれくらい重要だと思うかを3段階(1:重要でない。2:どちらともいえない。3:重要である。)で評定させ、さらに、32項目のうち物語作成のために特に重要だと思う5項目を選択させる”というものであった。設問内容と32項目の詳細については、資料1を参照されたい。

手続き

日本では、大学の講義等を通じて大学生に、2部（学生用、親用）の調査用紙を入れた封筒を1人につき1部ずつ配布した。期日を設け、協力できる学生に提出をもとめた。学生と同居し協力できる親については、学生を通して回収を行った。学生と同居していないが協力できるとする親に対しては、学生を通して、調査用紙と返信用封筒を送り、郵送により回収した。中国での調査実施は、中国の大学院生に依頼し、ほぼ上記と同様の方法で、学生と親の調査用紙を回収した。

結 果

（1）重要評定の因子分析でみられる日中差

物語構成の際に、重視する部分についての因子分析を行うこととした。日本と中国のデータで共通して、あるいは、中国のデータにおいてのみ、3分の2以上の対象者が3と評定している8項目と、同様に3分の2以上の対象者が1と評定している3項目を除外したうえで、因子分析を行った（主因子法、スクリープロットにより因子数を決定、プロマックス回転）。共通性が0.16、因子負荷が0.35に満たない6項目を削除し、因子負荷が1つの因子について0.35以上で、かつ2因子にまたがって0.35以上の負荷を示さない15項目を選出した。その結果3因子が見出された（表1参照）。第1因子、収入の高さ、外見の若さ、仕事や学業成績の良好さに関する項目から構成されているため、「成功者」因子と命名した。第2因子は、将来の希望、受賞歴、生い立ち、配偶者の情報、仕事内容、趣味の内容に関する項目から構成されているが、これらはいずれも、履歴書やプロフィールに記入されることの多い内容であるため、「プロフィール・履歴書」因子と命名した。第3因子は、家族、先祖、近所づきあいに関する項目から構成されているため、「近親者との関係」因子と命名した。3つの因子間の相関を表2に示した。

表1: 因子負荷

質問項目	因子		
	因子1	因子2	因子3
13.収入は同年齢の人の中では上位	0.75	0.03	-0.16
31.十分な貯金を持っている	0.54	-0.14	0.06
15.夫には十分な収入がある	0.52	0.07	0.14
14.実際の年齢より若く見える	0.48	-0.06	-0.01
19.学校の成績は上位であった	0.43	-0.05	0.15
21.仕事で成功した	0.43	0.17	-0.05
28.将来の希望は本の出版	-0.05	0.63	0.03
24.最近、エッセイコンテストで入賞	-0.02	0.54	0.07
6.子どもの時父親が亡くなり経済的に苦労	-0.04	0.48	0.05
27.夫は高校の同級生だった	0.05	0.45	0.08
9.IT関連に仕事に携わっている	0.14	0.39	-0.10
4.絵を書くのが趣味である	-0.08	0.37	-0.09
16.正月に家族が集まる必要があるとの考え	0.05	-0.12	0.64
12.先祖の墓参りや法事は大切だとの考え	-0.03	0.12	0.55
20.近所づきあいを大切にす	0.03	0.08	0.37

表2: 因子間の相関係数

因子	因子1	因子2	因子3
因子1	1.00		
因子2	.11	1.00	
因子3	.23	.01	1.00

日中間の差を検討すべく、日本人と中国人に分けて、因子得点の平均値を算出し比較した。国別に因子ごとの平均値を示したのが表3である。因子ごとにみえていくと、第1因子(成功者因子)は、中国のほうが日本よりも重視する傾向があるといえそうである($t=-1.89, df=480, p<.06$)。第2因子(プロフィール・履歴書因子)は、日本では重視するが、中国ではむしろ重視されないと判定できる($t=6.79, df=480, p<.01$)。第3因子(近親者との関係因子)は、中国でより重視されているとみなせる($t=-4.72, df=480, p<.01$)。

表3: 国別にみた因子得点の平均値

国	対象者数	因子1	因子2	因子3
日本	326	-0.05	0.17	-0.11
中国	156	0.12	-0.35	0.24

(2) 個々の質問項目への反応と重要な5項目の選択にみられる日中差

(1)の因子分析の際に、日本と中国のデータで共通して、あるいは、中国のデータにおいてのみ、3分の2以上の対象者が3、もしくは、1に偏って評定した、11項目を除外した。この11項目のうち、中国においてのみ、顕著に3、もしくは1と多く評定されていた項目について触れておきたい。

まず、中国においてのみ、顕著に多く3と評定されていた項目をみる。項目1(健康に注意している)、項目2(友だちに人気がある)、項目23(きまじめである)が、中国において重視される傾向にあった。日中でそれぞれどのような評定がなされていたかの詳細を示したのが表4、表5、表6である。項目1(健康に注意している)に対して、日本では、あまり重視する傾向はみられないが、中国では、ほぼ7割の人が「重要である」と評定し、日中間で有意な差がみられた(表4参照; $\chi^2(2, N=482)=59.4, p<.01$)。項目2(友だちに人気がある)に対して、日本でも3と評定する割合が高いが(63.2%)、中国で有意に高い割合(76.3%)で重視する傾向がみられた(表5参照; $\chi^2(2, N=482)=12.1, p<.01$)。項目23(きまじめである)に対して、日本ではほぼ5割が3と評定しているが、中国ではほぼ7割の人が3と評定しており、重視する度合いに有意な日中差がみられた(表6参照; $\chi^2(2, N=482)=31.7, p<.01$)。

次に、中国においてのみ顕著に多く1と評定された項目を紹介する。項目22(小型の犬を飼っている)が中国においてより軽視される傾向にあった。日中でそれぞれどのような評定がなされていたかの詳細を示したのが表7である。項目22(小型の犬を飼っている)に対して、日本では約3割が3と評定しているのに対して、中国では1割強が3を評定しているものの7割近くが1と評定しており、中国のほうが有意に重視しない傾向にあることがわかった(表7参照; $\chi^2(2, N=482)=38.7,$

$p < .01$)

表4:項目1(健康に注意している)に対する評価の比率

	1:重要ではない	2:どちらともいえない	3:重要である	合計
日本	27.6%	37.1%	35.3%	100.0%
中国	4.5%	25.6%	69.9%	100.0%

表5:項目2(友だちに人気がある)に対する評価の比率

	1:重要ではない	2:どちらともいえない	3:重要である	合計
日本	10.4%	26.4%	63.2%	100.0%
中国	2.6%	21.2%	76.3%	100.0%

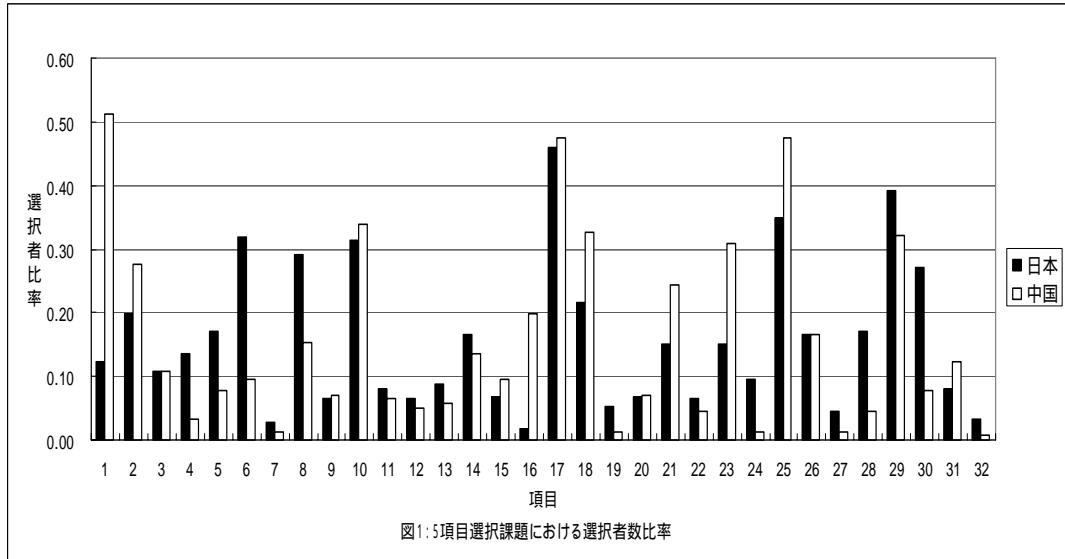
表6:項目23(きまじめである)に対する評価の比率

	1:重要ではない	2:どちらともいえない	3:重要である	合計
日本	14.7%	36.2%	49.1%	100.0%
中国	0.6%	28.2%	71.2%	100.0%

表7:項目22(小型の犬を飼っている)に対する評価の比率

	1:重要ではない	2:どちらともいえない	3:重要である	合計
日本	38.3%	33.4%	28.2%	100.0%
中国	68.6%	17.3%	14.1%	100.0%

最後に、物語作成のために特に重要だと思われる5項目の選択の結果について説明する。国別に5項目の選択の様子を示した図1を参照されたい。図1は、項目ごとに、選択数をそれぞれの国の対象者数で割ってもとめた比率を表現したものである。これまで述べてきた結果と類似する傾向も示されているが(例えば、項目1(健康に注意している)、項目2(友だちに人気がある)、項目23(きまじめである)に対して、中国において選択率が高いこと、第2因子に関係する項目に対する選択率が日本のほうが中国よりも高いこと、第3因子に関わる項目16(お正月には家族が集まる必要があると考える)に対しては中国のほうが選択率が高いこと)、それ以外で示されている差異がいくつかある。項目25(将来に希望をもっている)、項目18(夫と仲がよい)は中国のほうが明らかに選択率が高いが(項目25: $\chi^2(1, N=482)=6.89, p < .01$; 項目18: $\chi^2(1, N=482)=7.06, p < .01$)、項目30(ときどきひどくふさぎこむ)、項目8(結婚している)、項目5(人から注目されるのが好きである)は日本のほうが選択率が高い傾向が示されている(項目30: $\chi^2(1, N=482)=23.9, p < .01$; 項目8: $\chi^2(1, N=482)=10.7, p < .01$; 項目5: $\chi^2(1, N=482)=7.83, p < .01$)。



考 察

以上の結果を次のようにまとめることができるだろう。物語作成の際に、日中で共通して有する因子は、「成功者因子」、「プロフィール・履歴書因子」、「近親者との関係因子」の3つである。そのうち、中国では、「成功者因子」、「近親者との関係因子」を重視するのに対して、日本では、「プロフィール・履歴書因子」を重視する傾向にある。細かく項目ごとにみても、中国では、「健康に注意している」「友だちに人気がある」「きまじめである」「将来に希望をもっている」「夫と仲がよい」を重視するが、日本では、「ときどきふさぎこむ」「結婚している」「人から注目されるのが好きである」を重視する傾向にあり、因子分析結果を補足する内容となっている。飛躍しすぎだが、これらの結果から推測すると、物語といった場合に、中国では、人間関係も大事にする、まじめな成功者が主人公の話、あるいは、まじめな主人公が出世していくサクセスストーリーを思い描く傾向にあるのかもしれない。一方、日本では、趣味や生き立ち、仕事の内容、受賞歴、日常の様子、性質など、主人公の人となりにより関心を持つかもしれない。

ただし、今回の結果から、単純に日中の認知的枠組の差異を述べるのは難しいのも事実である。本稿は、中間報告であり、今後、世代差、性別差、下位文化差（日本国内、中国国内）、生育環境の違い（学歴、職歴等）を考慮に入れて分析をすすめる必要がある。また、日中の認知的枠組の違いを把握するためには、他の複数の調査結果とあわせて解釈していく必要がある。新たな調査の実施も視野にいれて、さらなる検討を続けたい。

引用文献

東 洋 (2003) 日米比較研究ノート - 文化心理学と異文化間比較 - 発達研究, 17, 107-113.

Azuma, H. (in press) The Era of Fluid Culture: Conceptual Implications for Cultural Psychology. *Proceedings of International Congress of Psychology*. (Paper presented at the International Congress of Psychology, 2004, at Beijing)

<謝 辞>

質問項目作成にあたり、ご助言をいただいた柏木恵子教授、柿沼美紀教授、向田久美子助教授、高崎文子講師、馮愛萍（フォンアイピン）氏に心よりお礼申し上げます。また、中国における調査実施にご協力いただいた、張厚燦（Zhang Houcan）教授、Xiaomin Sun氏をはじめとする北京師範大学の大学院生の皆様にも深く感謝申し上げます。

<付 記>

本研究は、科学研究費補助金 基盤研究(B)「行為の理解、推測、評価の認知的枠組みとしての文化的スクリプト：日・米・中比較研究」(課題番号：14310062；研究代表者：東 洋)の助成、および、(財)発達科学研究教育センターの研究委託を受けて実施された。

資料 1

質問紙：日本語版

ある 35 歳の女性がいます。あなたはこの人を主人公にした物語を書くことになっています。この人に関する情報が下に 32 項目あります。

物語を作るためには、各項目の情報は、どれくらい重要だと思いますか。各項目の右に記された 1～3 の 3 つの数字のうち、あなたが一番近いと思う数字に をつけてください。

	重要 ではない	どちらとも いえない	重要で ある
1) 健康に注意している	1	2	3
2) 友だちに人気がある	1	2	3
3) 毎晩その日の仕事を反省する	1	2	3
4) 絵を描くのが趣味である	1	2	3
5) 人から注目されるのが好きである (目立ちたがりやである)	1	2	3

	重要 ではない	どちらとも いえない	重要で ある
6) 子どもの時父親が亡くなり経済的に苦労した	1	2	3
7) 先週、大好きな俳優にレストランで会い、サインをもらった	1	2	3
8) 結婚している	1	2	3
9) IT 関連の仕事にたずさわっている	1	2	3
10) 数人の親友がいる	1	2	3

	重要 ではない	どちらとも いえない	重要で ある
11) 掃除をあまりしないので、部屋はいつも散らかっている	1	2	3
12) 先祖のお墓参りや法事を行うことは大切だと考えている	1	2	3
13) 収入は同年齢の人の中では上位である	1	2	3
14) 実際の年齢より若く見える	1	2	3
15) 夫には十分な収入がある	1	2	3

物語作成の際に重視する項目は何か

	重要 ではない	どちらとも いえない	重要で ある
16) お正月には、家族が集まる必要があると考えている	1	2	3
17) しっかり目標をたてて、人生を自分できりひらいて いきたいと思っている	1	2	3
18) 夫と仲がよい	1	2	3
19) 学校の成績は上位であった	1	2	3
20) 近所づきあいを大切にしている	1	2	3
21) 仕事で成功した	1	2	3
22) 小型の犬を飼っている	1	2	3

	重要 ではない	どちらとも いえない	重要で ある
23) きまじめである	1	2	3
24) 最近、エッセイコンテストで入賞した	1	2	3
25) 将来に希望をもっている	1	2	3
26) 平凡に暮らすのがよいと思っている	1	2	3
27) 夫は高校の同級生だった	1	2	3

	重要 ではない	どちらとも いえない	重要で ある
28) 将来の希望は本を出版することである	1	2	3
29) 一生懸命やっていけば、いつかいいことがあると思っている .	1	2	3
30) ときどきひどくふさぎこむ	1	2	3
31) 十分な貯金を持っている	1	2	3
32) くじで10万円あたった	1	2	3

上記の32項目の中で、特に重要だと思われる項目5つを番号でお答えください。

特に重要だと思われる項目の番号 ()()()()()

